

東与賀中学校における全国学力・学習状況調査の概要 (ダイジェスト版)

佐賀市立東与賀中学校
平成21年9月30日

- 調査の趣旨 (文部科学省より)
 - 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図り、併せて児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげる。

- 調査期日
平成21年4月21日(火)

- 調査の対象学年および対象者数
○ 佐賀市立東与賀中学校 3年生 国語：73人、 数学：73人

- 調査の内容
(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A、数学A】	主として「活用」に関する問題 【国語B、数学B】
<ul style="list-style-type: none"> ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

- (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

- 調査結果について
 - 今回の分析は、平成21年4月21日現在(調査実施日)での東与賀中学校の教科に関する調査および生活習慣等に関する質問紙調査について行っています。
 - 質問紙調査の結果については、「佐賀市が目指す子ども像*」の「基礎学力を身につけた子ども」に関する抜粋のほか、「倫理観・社会常識を身につけた子ども」に関して大切にしたい8項目、向上心・生命尊重・思いやり・感謝・規則・責任感・礼儀・勤労にあてはまる質問を抜粋して分析しました。
 - なお、ここでは、佐賀市立東与賀中学校全体の結果分析および今後の方針を概括的に示しています。対象となった3年生の個々の生徒については、先日、学校から個人票を配布しています。

*佐賀市が目指す子ども像・・・「基礎学力を身につけた子ども」「倫理観・社会常識を身につけた子ども」「佐賀を誇り愛着をもつ子ども」

■ 結果の概要と対策
<教科に関する調査について>

○ 東与賀中学校全体の正答率は、全国と比較して国語・数学ともにやや下回った。しかし、昨年度、全国 平均より低かった分野で若干の上昇がみられた。

⇒ 東与賀中学校の正答率は、全国と比較し、国語Aと数学Bがほぼ同じで、国語Bと数学Aがやや下回っています。昨年度と比較すると、平均より低かった領域で得点の上昇がみられ、その領域においては国語A・B、数学A・Bともに上昇しています。

国語では「A：主として知識」「B：主として活用」、数学では「A：主として知識」「B：主として活用」で、今後も生徒の実態に応じ基礎的な知識・技能の習得とあわせて、主体的に学び、基礎的な知識等を活用する力を身につけさせなければなりません。

⇒ 学力向上は、短期間で達成できるものではありません。本校では、具体的目標及び指導・評価計画の検証をおこないます。また、昨年度設定した学力向上に向けた中期的総合的な方策の修正を行い、指導法の改善や繰り返し学習、補充学習を取り入れながら、さらなる学力の向上の手だてを工夫・改善する必要があります。

<問題A、問題Bについて>

○ 問題Aより問題Bの正答率が低く、学んだ「知識」を「活用」する力に課題がある。この点をふまえて「活用」する力を高めるため、授業改善に取り組む必要がある。

⇒ 主に「知識」を問う問題Aと主に「活用」を問う問題Bの正答率の差は、国語では1.2点、数学では2.0点で、全国の結果と比べてほぼ同じレベルにあります。本校の子どもたちは、「知識」についても「活用」する力に関しても、全国と同様に課題があります。

⇒ 基礎的な知識・理解の向上については、基礎・基本の習得に重点を置きながら授業改善に取り組んでいく必要があります。一方、国語については、読解力、表現力などの向上のために指導方法の工夫・改善に取り組んでいくことが必要だと考えます。

⇒ 「活用」に関しては、基礎的な知識・理解を応用して問題を解決する中で、考えさせる学習経験を多く積み重ねることが大切です。授業で習ったことを生活場面などへ応用してみる、逆に、生活場面から問題を探してみるといった「発展的な学習」を計画的に取り入れていく必要があります。また、教師の説明を聞き、個人で問題を解くだけでなく、集団で論議しながら解決することも大切です。『学び合い』の中で、自分の考えを分かりやすく表現する力、相手の考えに指摘を与える力、どちらがより有効か判断する力などが身につく、「活用」力を高めることができます。今回の分析結果をもとに、「活用」する力を高めるために、さらに細かな分析結果をふまえながら、授業改善等に生かしていきたいと考えます。本校は昨年度より佐賀市教育委員会から2年間の委嘱を受けて、『学び合い』について研究を進め、授業の中に『学び合い』の考え方を取り入れて授業実践しているところです。

<正答数分布について>

○ 全国とほぼ同じ分布を示している。国語、数学ともに散らばりがあり、数学Aは散らばりが最も大きく、数学Bでは若干ではあるが、二極化の傾向を示している。個に応じる指導をより強化していく必要がある。

⇒ 数学については、問題Aで散らばりが最も大きく、問題Bでは若干ですが、学力分布の二極化傾向がみられます。これは、系統性の強い教科で起こります。レディネステストで生徒理解を十分に行い、単元テスト等をつまづきを早期に発見し、その都度、反復学習や補充学習を行うなどして、個に応じてきめ細やかな指導で二極化傾向を解消していくよう努めていきたいと思ひます。

<生活習慣について>

○ 基本的な生活習慣に関することでは、「朝ごはん」に関する質問については、全国とほぼ同じレベルで、「睡眠」に関する質問については、全国と比べて、「7時間以上の睡眠時間」はやや上回り、「7時までに起きる」は大きく下回った。

⇒ 「朝ごはん」「睡眠時間」については、全国平均とほぼ同じレベルか、やや上回っていました。「7時までに起きる」は大きく下回りました。夜更かしなどで就寝時間が遅くなっているようです。

今後も学校、PTA、佐賀市教育委員会が取り組んでいる「早寝・早起き・朝ごはん」運動を推進していきたいと思ひます。学校では、生徒会の遅刻0運動や特別活動などを通して生活リズムづくりの大切さを指導し、習慣づけをしていきたいと思ひます。

「規則正しい生活」の大切さ・必要性を、PTA保護者会や地区懇談会等を通して生徒の実態を伝えるとともにさらに保護者に理解・協力してもらい、家庭では早寝・早起きの習慣化を図っていく必要があります。

<学習環境について>

- 学習習慣に関することでは、全国と比べて、「読書」に取り組んでいる子どもはほぼ同じレベルであるが、「まったくしない」という子どもが、約40%もいる。
- 「家庭で30分以上勉強する」と答えた子どもの割合は、全国をやや上回っているが、家庭学習の時間は短いと考える。30分以下、全くしない子どもが約14%もいる。
- 学校の授業については、「普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思う」子どもの割合は、全国を大きく下回っている。
- 「家で自分で計画を立てて勉強している」と回答している生徒の割合は、全国を大きく下回り計画的な学習習慣が身につけていないと考える。計画を立てて勉強している子どもは全国的に低く約33%しかいない。

⇒ 学校では、学習の大切さ、楽しさなどを授業を通して指導していく必要があります。心を豊かにする読書の習慣を定着させるために「朝読書」「図書館の活用」の指導を行っていく必要があります。また、家庭学習の習慣を定着させるために「家庭学習の手引き」「1日1ページ」「宿題の出し方の工夫」「学習計画を立てさせる」など、今後も生徒の実態に応じた取り組みを進めていきたいと思えます。特に計画的な学習を進めさせるために、テスト計画表の点検、テスト後の反省を十分にさせることが重要になってきます。そこで、保護者会などで親子で考える進路計画の大切さと家庭学習の必要性を啓発し、家庭との連携を図りながら学習習慣づくりを今後もさらに推進していく必要があります。

<地域との関わりなどについて>

- 「地域での生活」に関連した質問では、「今住んでいる地域の歴史や自然に関して関心がある」「今住んでいる地域の行事に参加している」については、全国を大きく下回った。「近所の人に会ったときは、あいさつをしている」については、全国と同じレベルである。

⇒ 子どもに地域よさをより感得させるという観点から、総合的な学習の時間、学校行事、その他の地域連携活動を見直し、工夫・改善を行いたいと思えます。各地域の活動を知ることで、子どもたちの地域行事活動への参加をこれまで以上に奨励する必要があります。また、PTAや生徒会による「朝のあいさつ運動」は今後も奨励していきたいと思えます。

<いじめについて>

- 「いじめはどんな理由でもいけないこと」と考えている生徒は、全国を大きく上回った。

⇒ 学校で毎月1日に行ってきた「いじめ・いのちを考える日」の取り組みや生活アンケートの実施・指導の成果が表れています。今後も地域、家庭、学校で「いじめ」の問題性と「いのち」の大切さを継続して生徒に啓発していきます。また、PTAとの連携も充実させていきたいと思えます。

<きまりについて>

- 「学校のきまり（規則）を守っている」をみると、全国を大きく下回った。「友達との約束を守っている」「人が困っているときは進んで助ける」をみると全国と同じレベルであった。

⇒ 全国に比べて、学校のきまり（規則）の理解が不十分な子どもの姿が見られます。集団の中の一人としての規範意識が高まっていないようです。世の中の出来事への関心を高めながら倫理観や社会常識を育てるために道徳教育、特別活動などさらに充実させていきたと考えています。家庭・地域との連携を通じた啓発にも、引き続き取り組んでいきます。

<自分を見つめる心について>

- 「人の役に立つ人間になりたい」をみると全国を大きく上回り、「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している」「人の気持ちがわかる人間になりたい」をみると全国平均をやや上回り、「将来の夢や目標を持っている」「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」をみると全国とほぼ同じレベルであるが、「自分には、よいところがあると思う」をみると全国を大きく下回っている。

⇒ どの項目も全国に比べほぼ同じレベルか、やや・大きく上回っていました。しかし、自尊意識である「自分には、よいところがあると思う」をみると全国を大きく下回っています。生徒が活躍する場が少なく承認される機会が少なかつたと思われま。

本校の教育目標に「自己尊（存）在感を味わわせる」を掲げています。学校は、「自尊意識」

を高めるために、Q-Uテストなどを活用して「出番・役割・承認」など互いに認め合う人間関係づくりを進めているところです。現在、始業式、終業式で決意表明や学期の振り返りを発表し、各担任から承認の言葉をもらい「自尊感情」を高める手だてを行っているところです。

■ は全国比較±3ポイント以上の差があるもの、 は全国平均を下回るもの

調査の項目	本校	佐賀市	全国
・朝食を毎日食べている ※「している」「どちらかといえばしている」と答えた生徒の割合	93.2	92.6	92.4
・平日、どれくらいの時間読書をするか ※「10分以上」と答えた生徒の割合	48.0	52.5	47.9
・平日、どれくらいの時間勉強をするのか ※「30分以上」と答えた生徒の割合	86.4	78.7	81.9
・普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられているか ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合	57.6	70.0	69.8
・ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合	91.8	93.3	91.9
・難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合	64.4	64.7	62.9
・将来の夢や目標を持っている ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合	71.2	70.7	71.0
・家の手伝いをしている ※「よくしている」「時々している」と答えた生徒の割合	57.6	63.7	63.0
・家で自分で計画を立てて勉強している ※「している」「どちらかといえばしている」と答えた生徒の割合	32.9	36.7	37.9
・今住んでいる地域の歴史や自然に関して関心がある ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合	13.7	24.5	23.4
・今住んでいる地域の行事に参加している ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合	16.5	32.3	37.8
・学校のきまり（規則）を守っている ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合	79.5	90.2	88.6
・友達との約束を守っている ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合	95.9	97.4	96.1
・人が困っているときは、進んで助ける ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合	71.2	76.0	72.2
・近所の人に会ったときは、あいさつをしている ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合	84.9	84.2	83.0
・人の気持ちが分かる人間になりたい ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合	94.5	93.4	91.9
・いじめは、どんな理由があってもいけないこと ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合	98.6	93.1	90.3
・人の役に立つ人間になりたい ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合	98.7	93.0	90.4
・自分には、よいところがあると思う ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合	42.3	60.3	61.2